

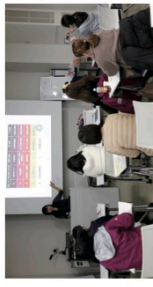
日常の延長線上に考えれば防災や避難はもっと身近に、快適になれる。

アウトドア防災ガイド あんどうりす 先生

日本の避難所を見直そう

「スフィア基準」という世界的な被災者支援のガイドラインがあることをご存知ですか？そこでは「日本の避難所は難民施設に近い」という厳しい評価が下されています。日本人は真面目なので、避難所は「ガマンする場所」なの当たり前前と想っているのですが、それでは長い避難生活を送るうちに、身体も心も病んでしまいます。

イタリアでは、避難所用の設備こそアザイン性を高くしおしやれやれであるべきだと考えられています。また、子どもが普段のよう過ごせる遊び場も必須。「ガマンの避難所」ではなく、被災したシヨックを和らげ元気を回復できる場所にしたいですね。



低体温症にならないためには、濡れない事が一番大事です。濡れた衣服は身体を熱を想像以上に奪います。衣服の素材選びと着る順番が重要です。

速乾性があるのは、シルクとポリエステル。木綿は乾きにくいので、冬に最適なものはウールの下着。汗を吸いと温まります。下着はウール、一番外側に風を通さないアウトドア用のレインコート、その間に「動かない空気層」を作れるダウンを着るのがオススメ。動かない空気は、最強の保温層になってくれます。



起こりうる性被害を防ぐ

最近問題視されているのは避難所での性被害。東日本大震災での被害を調査し、2016年の熊本地震の時には、性犯罪が起こる前提で、それを防ぐ対策を施して避難所を開設しています。

「避難所にはピンクの服を着て行ったらダメ」というウワサが流れましたが、黒い服でも、高齢の女性も、男性も被害に



Q&A 防災の質問、なんでも答えます！

講師 あんどうりすさんに教えてもらいました。

Q 警戒レベル5で逃げればいいのか？

A 「警戒レベル5」は過ぎる！逃げ逃れににならないために。

「1時間-100ミリの雨」は、1時間に1回、1m四方に、体重100kgの力士が1人落ちてくるのと同じ凄まじさです。一般的には50ミリの雨で浸水、30ミリの雨で前が見えないと言われています。「50ミリの雨で避難準備」と、自分なりの基準を持っておいて。

Q 災害の後片付けを子どもとでもいい？

A 感染症やけがの危険と隣り合わせ。子どもは参加させないで。

ニュースで中学生が被災地の片づけをしていますし、体験などを着る子どもたちが、マスクもせずに掃除をする姿が出ることもありますが、これ、実はとても危険。けがをしたら感染症にかかると可能性があります。子どもたちは水を溜めた容器に手を触れず、清潔に扱ってほしいです。

Q 逃げるときはスニーカー？長靴？

A 足が濡れると一気に体温も下がる。ひざ丈の長靴を。時間にも注意。

スニーカーだと濡れるし、短い長靴には水が入りやす。ベストはひざ丈までの長靴で、安全に逃げられる時間帯で避難すること。スニーカーでも水濡れがなければ簡単に濡れます。はきものより「いつ逃げるか」のほうが重要です。

大災害時代を生きる女性のために 防災キャンプで 考えよう

私たちスタイルの防災・避難

セミナー実施日

2020.1.26～27

2020
Vol.02
Spring

